

なぜサンゴは死んでしまうの？



ヒント：陸上の自然環境の改変・破壊が、海の環境に大きな影響を及ぼす。サンゴには褐虫藻という海藻のなかまが共生していますが、海水の温度が30度を超える日が続くと、サンゴから褐虫藻がぬけ出してしまい、サンゴは栄養が足りなくなり死んでしまいます。人為的なCO²の増加などによる地球の温暖化は、海の生き物にも大きな影響を及ぼしています。また、森林が開発によって失われることで、赤土が海へ流出してしまい、サンゴが埋まって窒息してしまふことがあります。沖縄では9割のサンゴが、赤土による窒息死で失われてしまったと考えられています。さらに、サンゴの天敵であるオニヒトデの大量発生が、多くのサンゴを死に追いやっていますが、オニヒトデの爆発的な増加は、開発による流出土のため、海が過剰に富栄養化したことと、オニヒトデの天敵である法螺貝を、人間が乱獲したせいではないかと考えられています。